

新型コロナウイルス感染症の市内経済への影響調査及び持続的・地域振興策研究

静岡英和学院大学 人間社会学部 毛利ゼミ (御殿場班)

指導教員：准教授 毛利康秀

参加学生：成田蓮、遠藤平晟、小澤斗慧琉、KARUNARATHNA
BHANUKA ASALA、佐藤藍子、杉本陸、時田裕宇、内
藤俊輔、長島大晟、林飛翔、藤田湧磨、細川楓音、
望月琉也

1 要約

- (1) 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の流行 (以降「コロナ禍」と表記) が御殿場市の経済に及ぼした影響について、フィールドワークおよびアンケート調査を行って、実態の把握ならびにコロナ禍後を見据えた持続的な地域振興策としてどのような方向性が考えられるかに関する検討を行った。
- (2) コロナ禍は御殿場市の地域経済および観光に大きな影響を及ぼした。御殿場駅周辺を中心にフィールドワークを行って関係者からの聞き取りを行った結果、商店街は深刻な打撃を受けていること、しかし御殿場プレミアム・アウトレットは比較的健闘していることが明らかになった。
- (3) 店主を対象としたアンケート調査を行ったところ、大半の店で売り上げが半分以下に落ち込んでおり、とりわけ飲食業への影響が大きかったことがあらためて確認できた。今後の経営の見通しについては、50代以上のオーナーで悲観的な見方が強いなど、世代による違いも明らかになった。
- (4) 御殿場市の商店街はオーナー経営者の割合が高い。オーナー経営者の平均年齢は57.4歳で、平均で69.6歳まで現役を続けたいと回答し、引退予定までの平均年数は12.2年であった。特に、50代以上のオーナーの2割が5年以内、3割が10年以内に引退すると回答しており、さらに50代以上のオーナーの半数以上は後継者がおらず自分の代限りで廃業すると回答している。御殿場の商店街は、今後10年で大きく様変わりしていくことが予想される。
- (5) 40代以下のオーナーは、コロナ禍における観光振興について比較的慎重な見方をしている一方、常連客へのフォローアップを重視しながらインターネットでの情報発信に力を入れていることが分かった。
- (6) 観光振興・地域振興に関する意見にも留意しつつ検討した結果、若手の経営者を中心に「御殿場らしさが楽しめるイベント」を企画・運営していくのはどうか、という提言を取りまとめた。

2 研究の目的

2020年に世界的規模で拡大した新型コロナウイルス感染症の流行は2021年になっても継続している。流行の長期化は静岡県の地域経済に大きな影響を及ぼしており、特に首都圏に近い御殿場市は深刻な打撃を受けている。十分な感染予防対策を実施しながら地域振興・観光振興を両立させていくことは喫緊の課題である。

毛利ゼミでは、以前にも御殿場市内へのフィールドワークや店主等を対象としたアンケート調査を行い、地域活性化のための提言を行ったことがある。しかし、前述のとおりコロナ禍が長引いていることにより、地域をとりまく状況は大きく変化している。そこで、あらためてフィールドワークやアンケート調査等を行ってコロナ禍における実情の把握を試み、御殿場市の特性に合わせた持続性のある地域振興・観光振興につなげていくことを目指して提言を取りまとめることを試みる。

3 研究の内容

毛利ゼミナールの中から御殿場を主に担当する研究班を編成して、現地へのフィールドワークならびにアンケート調査等の活動を行った。概ね、以下のようなスケジュールで進行した。

- ・10月4日 御殿場市を訪問、御殿場市役所、御殿場市商工会、御殿場市観光協会の担当者に挨拶
- ・10～11月 御殿場市に関する基本的な知識に関する学習の開始
- ・11月 アンケート調査の設計、調査票の作成

- ・11月19日 御殿場市へのフィールドワークの実施
(図1参照)
御殿場市役所を訪問(図2参照)
御殿場市商工会を訪問(図3参照)
駅周辺の商店街の巡検(図4参照)
観光案内所での聴き取り(図5参照)
- ・11月30日 御殿場市商工会、御殿場市観光協会を訪問、アンケート調査の実施
- ・11月～12月 フィールドワーク結果の報告会およびディスカッション
- ・12月～1月 アンケートデータの集計・分析作業

4 研究の成果

(1) 当初の計画

新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けたと思われる業種(飲食・宿泊・観光業等)や商店街、中小企業事業主へのアンケート調査および観光客へのアンケート調査を予定している。調査結果を分析・検討することによって市内経済の実態を把握するとともに、まず短期的課題への対応、そして長期的には新型コロナウイルスの流行の終息後も見据えた課題の抽出および取り組みへの検討を行う。

(2) 実際の内容 (B:一部修正)

当初の予定では御殿場市を訪問した観光客に対するアンケート調査を実施して集計まで行う予定であり、実際に調査まで着手したが、調査票の回収が進まなかったこと、特に年末以降の新型コロナウイルスワクチン変異株(オミクロン株)の大流行によって観光客の動きが止まったことにより、今年度の取りまとめを断念した。御殿場市観光協会の協力は引き続き得られているので調査活動自体は継続し、次年度以降の取りまとめを目指すことにした。

(3) 実績・成果と課題

新型コロナウイルスの感染リスクを低減するため、フィールドワークの回数は最小限に抑え、感染者数が落ち着いている時期を選んで実施した。

市役所および商工会での担当者への聴き取りにより、飲食業、特に主に夜間に営業する飲食店は影響が大きく、国・県・市による支援を受けながら経営努力が続けられていることがあらためて確認できた。観光案内所での聴き取りでは、御殿場駅前に到達する観光客は大きく落ち込み、2021年現在もその影響が残っているが、御殿場プレミアム・アウトレットは比較的影響が少ないことが分かった。



図1 フィールドワークの様子



図2 市役所での聴き取りの様子



図3 駅周辺の商店街を巡検する様子



図4 御殿場市商工会での聴き取りの様子



図5 観光案内所での聴き取りの様子

御殿場市商工会の協力を得て、駅周辺の事業主へのアンケート調査を実施した。対象となった事業所数は334で、アンケート用紙は手渡し（一部郵送）、回収は郵送によって行い、2021年12月～1月までの調査期間中に有効回答131を得た。有効回答率は39.2%であった。有効回答131のうち、オーナー経営者は112人、店舗管理責任者（チェーン店の店長など）は13人であった（残りは未回答）。

集計結果の概要は以下の通りである。オーナー経営者と店舗管理責任者の年齢分布は表1のようになった。どちらも50歳代が最も多くなっている。オーナー経営者の平均年齢は57.4歳、店舗管理責任者の平均年齢は52.9歳であった。オーナー経営者のうち70代が23人、80代も7名いることが注目される。

オーナー経営者のうち、若手と考えられる40代以下は30人、ベテランと考えられる50代以上は82人となった。オーナー経営者を40代以下と50代以上に分け、引退予定年齢までの年数をまとめると表2のようになった。40代以下のオーナーは長く経営を続けることが分かるが、50代以上のオーナーの2割が5年以内、3割が10年以内に引退すると回答している。平均で69.6歳まで現役を続けたいと回答し、引退予定までの平均年数は12.2年であった。

オーナー経営者のうち、後継者がいるかについて質問したところ表3のようになった。40代以下のオーナーはまだ決まっていない割合が高く、50代以上のオーナーの半数以上は後継者がおらず、「自分の代で廃業する予定」と回答している。御殿場の商店街は、今後10年ほどで大きく様変わりしていくことが予想される。

現在の経営状態について質問したところ表4のようになった。全体で半数近くが「厳しい」と回答し、「非常に厳しい」を加えると4分の3が厳しい状況にある。有意差は見られなかったが、50代以上のオーナー経営者はより厳しさを感じている傾向が認められる。

今後（1～5年後）の経営状態について質問したところ表5のようになった。有意差が認められ、40代以下のオーナーと店舗管理責任者は比較的楽観的に見ているが、50代以上のオーナーは悲観的に見ている割合が高くなっている。

表1 年齢分布(オーナー経営者と店舗管理責任者)

	オーナー		店舗管理責任者		合計	
	人	%	人	%	人	%
40歳未満	5	4.5%	0	0.0%	5	4.0%
40歳～49歳	25	22.3%	3	23.1%	28	22.4%
50歳～59歳	30	26.8%	7	53.8%	37	29.6%
60歳～69歳	22	19.6%	3	23.1%	25	20.0%
70歳～79歳	23	20.5%	0	0.0%	23	18.4%
80歳以上	7	6.3%	0	0.0%	7	5.6%
未回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
回答計	112	100.0%	13	100.0%	125	100.0%

表2 引退予定年齢までの年数(オーナー経営者)

	オーナー40代以下		オーナー50代以上		合計	
	人	%	人	%	人	%
5年以内	2	6.7%	17	20.7%	19	17.0%
10年以内	6	20.0%	24	29.3%	30	26.8%
15年以内	6	20.0%	15	18.3%	21	18.8%
20年以内	7	23.3%	10	12.2%	17	15.2%
20年以上	9	30.0%	1	1.2%	10	8.9%
未回答	0	0.0%	15	18.3%	15	13.4%
回答計	30	100.0%	82	100.0%	112	100.0%

表3 後継者について(オーナー経営者)

	オーナー40代以下		オーナー50代以上		合計	
	人	%	人	%	人	%
既に決まっている	3	10.0%	17	20.7%	20	17.9%
検討しているが未定	5	16.7%	18	22.0%	23	20.5%
自分の代で廃業する予定	8	26.7%	44	53.7%	52	46.4%
まだ何も考えていない	12	40.0%	2	2.4%	14	12.5%
その他	1	3.3%	0	1.2%	2	1.8%
未回答	1	3.3%	1	0.0%	1	0.9%
回答計	30	100.0%	82	100.0%	112	100.0%

表4 現在の経営状態

	オーナー40代以下		オーナー50代以上		店舗管理責任者		合計	
	人	%	人	%	人	%	人	%
良好である	3	10.0%	4	4.9%	0	0.0%	7	5.6%
ふつう	10	33.3%	16	19.5%	2	15.4%	28	22.4%
厳しい	14	46.7%	36	43.9%	8	61.5%	58	46.4%
非常に厳しい	3	10.0%	26	31.7%	3	23.1%	32	25.6%
分からない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
未回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
合計	30	100.0%	82	100.0%	13	100.0%	125	100.0%

表5 今後(1～5年後)の経営状態

	オーナー40代以下		オーナー50代以上		店舗管理責任者		合計	
	人	%	人	%	人	%	人	%
より良好になっていくと思う	7	23.3%	4	4.9%	5	38.5%	16	12.8%
横ばいであると思う	11	36.7%	25	30.5%	2	15.4%	38	30.4%
より厳しくなっていくと思う	8	26.7%	24	29.3%	3	23.1%	35	28.0%
分からない	1	3.3%	23	28.0%	3	23.1%	27	21.6%
未回答	3	10.0%	6	7.3%	0	0.0%	9	7.2%
合計	30	100.0%	82	100.0%	13	100.0%	125	100.0%

表6 コロナ禍以降の売り上げ

	オーナー40代以下		オーナー50代以上		店舗管理責任者		合計	
	人	%	人	%	人	%	人	%
一時的に売上ゼロになった	3	10.0%	6	7.3%	2	15.4%	11	8.8%
大幅減少(最大50%以上)	11	36.7%	37	45.1%	5	38.5%	53	42.4%
減少。(最大50%未満)	10	33.3%	27	32.9%	4	30.8%	41	32.8%
ほとんど影響はなかった	3	10.0%	9	11.0%	1	7.7%	13	10.4%
売り上げは増加した	2	6.7%	1	1.2%	1	7.7%	4	3.2%
その他	1	3.3%	2	2.4%	0	0.0%	3	2.4%
未回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
合計	30	100.0%	82	100.0%	13	100.0%	125	100.0%

コロナ禍以降の売り上げについて質問したところ表6のようになった。いずれも大幅に減少したとする回答が多数を占めた。業種別に集計すると、小売業よりも飲食業の店舗の減少幅が有意に高いことが分かった。

コロナ禍と観光振興策について質問したところ表7のようになった。ウイルスの流行が落ち着いていることを条件として推進していくべきとする回答が多かったが、40代以下のオーナーはより慎重な意見が目立った。

観光振興・地域振興で優先させるべき項目について複数回答可で質問したところ表8のようになった。全体として「御殿場らしさが楽しめるイベント等の開催」に支持が集まった。店舗管理責任者は無料駐車場の充実や新規施設の誘致を求める意見が多く、40代以下のオーナーは割引クーポンの発行を提案する声が目立った。

表7 コロナ禍と観光振興策について

	オーナー40代以下		オーナー50代以上		店舗管理責任者		合計	
	人	%	人	%	人	%	人	%
流行が落ち着いている状況であれば観光振興を進めて行くべき	6	20.0%	31	37.8%	10	76.9%	47	37.6%
大規模な流行再発がない限り、もっと積極的に推進すべき	10	33.3%	19	23.2%	1	7.7%	30	24.0%
流行が完全に収束するまで観光振興を行うべきではない	7	23.3%	11	13.4%	1	7.7%	19	15.2%
観光振興策は特に必要ない	1	3.3%	10	12.2%	1	7.7%	12	9.6%
分からない	4	13.3%	4	4.9%	0	0.0%	8	6.4%
その他	1	3.3%	2	2.4%	0	0.0%	3	2.4%
未回答	1	3.3%	5	6.1%	0	0.0%	6	4.8%
合計	30	100.0%	82	100.0%	13	100.0%	125	100.0%

* P<0.1

表8 観光振興・地域振興で優先させるべきもの(複数回答可)

	オーナー40代以下		オーナー50代以上		店舗管理責任者		合計	
	人	%	人	%	人	%	人	%
御殿場らしさが楽しめる企画・イベント等の開催	13	43.3%	37	45.1%	6	46.2%	56	44.8%
公共交通機関の充実(電車の本数増など)	9	30.0%	27	32.9%	5	38.5%	41	32.8%
無料駐車場の充実	10	33.3%	24	29.3%	6	46.2%	40	32.0%
新たな娯楽施設・商業施設等の誘致	9	30.0%	21	25.6%	7	53.8%	37	29.6%
御殿場ならではの特産品の開発・発売	7	23.3%	24	29.3%	4	30.8%	35	28.0%
観光スポットで利用できる割引クーポンの発行	9	30.0%	14	17.1%	4	30.8%	27	21.6%
道路の充実(道路の拡幅など)	5	16.7%	16	19.5%	3	23.1%	24	19.2%
御殿場ならではの料理の提供	6	20.0%	10	12.2%	1	7.7%	17	13.6%
御殿場プレミアム・アウトレットの再拡張	4	13.3%	4	4.9%	2	15.4%	10	8.0%
その他	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
合計(複数回答)	72		177		38		287	

%は有効回答数に対するもの

n= 30

n= 82

n= 13

n= 125

(4) 今後の改善点や対策

感染リスクの低減を優先して取り組んだため、フィールドワークの機会は最小限に抑えた。観光客へのアンケート調査にも着手したが、コロナ禍の影響が残る中で進展しなかったため、次年度以降の課題としたい。

5 地域への提言

この他、コロナ禍を契機として力を入れている取り組みについても質問したが、販路の新規開拓は少なく、常連客へのDM発送やフォローアップの徹底といった「守りの姿勢」が重視される傾向が浮き彫りになった。飲食業を中心にテイクアウト販売に力を入れているとする回答も目立ち、コロナ禍の情勢に対応した取り組みとして注目される。また、40代以下のオーナーはSNS (Facebook、Twitter、Instagramなど) での情報発信の強化に努めている割合が高く、コロナ禍が終息した後を見据えた「攻めの姿勢」に転じていくためには、50代以上のベテランオーナーの助言および店舗管理責任者の協力を得ながら、若手のオーナーを中心とした取り組みを通じた情報発信力の強化、企画力の強化が求められると考える。まずは、御殿場プレミアム・アウトレットへの来場客も呼び込めるような、「御殿場らしさが楽しめるイベント」を企画・実行していくのはどうかと考える。

6 地域からの評価

フィールドワークが11月、アンケート調査が12月から1月にかけての実施となったため、2月時点では集計結果の速報を順次フィードバックしている状況で、地域からの評価をいただくのはこれからという段階である。御殿場出身の学生もいるので、今後も御殿場市の地域振興・観光振興について注目していきたいと考えている。

謝辞

この研究を進めるにあたり、ふじのくに地域・大学コンソーシアム、御殿場市商工振興課および御殿場市商工会および商店主の皆様、御殿場市観光協会の皆様に大変お世話になりました。ここに感謝の意を申し上げます。